

いわき民報

社報民きわい
（第一八三四番） 第一一四番
己克輝千 人財印製
除九日曜月日刊日
十二二一 月一 日一 一

内科小兒科眼科外科
産科婦人科耳鼻咽喉科
皮膚泌尿器科
小名濱町
院長 安田善一
電話三十三番

漁旗高く新日本丸出漁

けふ母港を出航 一路鯉漁へ

小名濱造船所で終戦後

建造費二百萬圓を投じて建造中だった力印三代義勝氏の遠洋漁船「第一新日本丸」九九、五噸はこの程竣工試運転もしたのでいよいよ三十一日小名濱港を出航、途中氣仙沼に寄港、小名濱の準備を兼ねて一路金華山北方沖の鯉漁場に向ふことに決定した、現在小名濱所屬遠洋漁船は百三十五噸の三徳丸、九十噸の第二東日本丸の二隻船外四隻だけであるので新日本丸の就漁は鯉漁に一大偉力を加へるものと大きな期待をかけられてゐる、向本年中に同港所屬遠洋船は十隻余に達する見込みである

社会黨青年部 結成大會

社会黨青年部では一日午前九時から平市公會堂日本間に青年部結成大會を舉行、終つて青年部結成大會も閉會する

遺族會結成

市中初準備會を平市では終戦後見れば戦後遺族に對する一般の援護が薄らぎ勝ちなのを遺憾として、今度遺族會を結成、各遺族の相互扶助による更生及び援護の徹底供給の均等を期して備みあらずと過般準備中だつたが、いよいよ三十日小松茂、猪狩庄平、石坂一雄、伊藤創松、馬目ちやうさん等の遺族代表を集めて、初の結成準備會を開いた、向市内の遺族は約三百二十戸に達する

高瀬畫伯が 二科展へ

常連の畫録示し 五十號の作品を洋畫界に君臨する二科展は五年振りに復活、上野の森に並々しく開展されるが、平市一丁目高瀬男畫伯は獨特のタッチを示す五十號作品を出品、見事入選した、同畫伯の入選は五回目である、同畫伯の畫録を示してゐるが殊に戦時中ぼつ／＼たる野心を藏しながらも、畫筆を振はずにゐた同畫伯が終戦以來、精進をかたむけた大作だけに大きな期待をかけられてゐる

平驛聯區の 闘争協議會

國鐵従業員的首要はこれを好機の口實として各工場に波及するおそれがありひいては民主日本産業再建を拒む全労働階級に及ぶ重大問題として各方面から成行が重視されてゐるが、平驛聯區分會では三十日午前十時から内郷町野野記念館に高秋小川郷間の全闘争委員三百余名の參集をもとめて闘争協議會を開

厄日は無事 今年稀な 大豊作型だ

二十日一日はどうか？小名からすべての点から見て現在の漁獲所の御試食をうかがふと氣象上からは大豊作型の天候でマリアナ附近に發生した強風をあるとの嬉しい話である。颶風の卵も洋上で消滅したので現在のところでは颶風の心配みえず、先づ無事太平な厄日である、向雨は日本海と太平洋に高氣圧があり融合してゐるので、當分見込みはない、然し太平洋岸に東西に不連続線が伸びてゐるので、時々雷雨性の雨がとろ／＼と降りあるから、早魃に過日への如く悩むこともあるまい、タ全部化柳病にかゝつて居り直ちに收容された

新築社屋起工

株式組織と併行一日地鎮祭

本社の株式組織は順調に進行してゐるが、これに併行して社屋の建築工事を進めることになり、九月一日の吉日を以て市内田町四八番地、元警城夕刊社の現場で地鎮祭を執行、直ちに基礎工事に着手することになったが、工事請負には株主發起人の猪狩四郎氏が當り、利益を全く度外視して地方文化のため献身的努力を拂ふことになった。

新築社屋は間口四間、奥行十二間、四十八坪二階（延九十六坪）から成り、階下は事務室十六坪、文庫植字場二十坪、機械場十二坪を以て構成、階上は製本、印刷物操作室十二坪と残りの三十二坪を「民報講堂」として一般の會合、講演、講座等にも關する豫定である、この外配達の控所、新聞發送所などの附屬建物も考慮され、印刷設備と併せてこれが完成すると紙面も全く面目を一新紙として光彩を放つことになり、出版事業、一般印刷等にも期して候べきものがある

根絶せぬ経済違反

一日間の一斉取締り成績

平市では二十七日、八日の兩日管内経済違反の一斉取締りを行ったが、この内説諭したもの二百二件、送局又は送局見込の者四十九件とある

▲煙草専賣違反、一件
▲價格超過、五十七件
▲價格未表示、五十三件
▲物々交換、三十三件
▲抱合せ、三〇件
▲米の無許可移動、一四件
▲穀物無許可加工、一〇件

四倉で罐詰 四倉町で乾パン配給は生活困窮者二十六名（病弱者、人夫、老弱者）の救済に乾パン一人當り二百三十グラム入り五袋、罐詰四百五十グラム入り四個を配給した

草野の赤痢 終熄か

現在患者三十四名
非常な勢いで連日繰出した草野落の集落赤痢は平市、保健所を以ては二十七日現在で罹病者中心に防疫陣の必死の努力と六十八名に達したが内死亡者十村民の協力により患者十二名の一名、轉歸者二十三名に及び實發生のみで漸く終熄をみた

今日小名濱で出漁準備懇談

第一船は来月早々に出漁か

小名濱所屬揚場網漁船十八日午前十時から正午から、決航は、いよいよ九月上旬から出漁は午後三時から何れも工業學漁、全月中に全船が就漁、大業校グラウンドで行はれる、優勝候魚たる鯛の大漁に、窮迫せる食糧は市役所チームで郵便局が之事情の緩和をはかると共に、水に次ぐダクホースとされて居る産福島の誇りを高く掲げやうと、組合せは左の通り

三十一日全船の船主並に船頭の協議會を小名濱漁業會に開催、万般の打合せを遂げ、かくて直に出漁の準備を開始することに

なつた、向今秋は水場も適温とあるので、豊漁が早くも期待されて居り、船主も漁師も張り切つてゐるから、来月十日頃に

は生きのよい鯛が食糧に供されやうとある

岡田石城地方事務所では麥を百パーセント供出して郡下の運搬を奨励しようとして、二十四日來各町村の賛助行脚をつゞけ既に十數ヶ町村を駆けめぐり農民に感謝を與へてゐる、二十八日現在の検査成績は大麥は四十九%、小麥四十八%に達しつげ馬鈴薯の代替超過を加へるといづれも五十五、六%となつた、尙食糧支所でも小田所長を陣頭に全所員が各町村に繰り込み農民と膝つき合せて懇談供出完遂に拍車をかけてゐる

復活した平商 吹奏樂團

來る一日初演奏
平商業學校吹奏樂團は戦局の苛烈さを加へて以來、工業學校への轉換その他から自然消滅の態となつてゐたが、終戦に依り再び商業學校に復歸した上、縣立野球試合は土木監督所、教職員組合、市役所、警林署、裁判所、事務所、郵便局の七チームが参加、三十一日に第一回戦を工業學校グラウンド及商業學校グラウンドで午後一時から、準決勝は一

三阪の赤痢 漸く終熄す

（既報）三阪村中三坂字中町部非常な勢いで連日繰出した草野落の集落赤痢は平市、保健所を以ては二十七日現在で罹病者中心に防疫陣の必死の努力と六十八名に達したが内死亡者十村民の協力により患者十二名の一名、轉歸者二十三名に及び實發生のみで漸く終熄をみた

産婆實地見習

右募集ス御希望ノ方、直接面談ノコト
平市五丁目電話四九二番
産婆 猪狩正子

工員募集

製罐工 若干名
板金工 若干名
但五厘鐵板加工出来る者
見習工 (十八才以下)
女工 (二十才以下)
若干名

希望者は履歴書を持參平労働署へ

セメント瓦製板製作
鐵山用製罐工及火造
パイプ製作及修理
パイプ配管工事
魚船用金物一式
瓦斯熔接並電気熔接

古川鐵工所
所長 古川直治
平市御治町電五三三

民衆つて援護を惜しむ勿れ
九月早々いよ／＼待望の鯉漁開始されるとある、新聞生活の厳しい折柄かゝる大衆の出現こそ待たるゝの豊漁たれと經濟平市の二十七、八兩日の經濟違反一斉取締りで二百余件あるが、經濟違反は稀なものである、國民の恥と知れぬが、厄日は無事、氣象學からみれば大豊作型の天候である、食糧に悩む折柄力強い雨り、今年こそ恵まれねばならない、たゞ天に祈るのみ

邸宅開放もすべて空論

依然として住に悩む引揚者

祖國の「温い手」を期待して海外から引揚げて来た同胞のうち平に居たものは寄るを見つづけるまでの間、市援會の手で市内伊達屋、鶴屋兩旅館に居住してゐるが、三世帯は一人の縁故者もなく住に悩む悲鳴を擧げてゐる。

市の大邸宅解放運動は机上での計畫のみで實際は行はれず、引揚者聯誼會として目下市住宅團と折衝して居り、これが目鼻つけばなんとか住宅難の解決もつくことになるが、急を要する問題はひとり引揚者の問題でなく同胞のためにと云ふ濫い心で積極的に受入れて貰ひたいと語つてゐる。

二十九日には新報から菅野英郎さん(四一)一家五名をはじめ同じく六名計十一名が引揚、けふこの頃は驛前の引揚者案内所も大賑ひを呈してゐる。

検査員の怠慢暴露

警團も驚く屑薯の供出振り
お里は田村郡夏井村と判る

よる二十二日第三配給所から市内田村の一部に主食代替の馬鈴薯が配給されたが、この馬鈴薯のうち殆んどが屑薯に對して四十個以上も懸ると云ふ事實が、あきらかとなり検査員の怠慢暴露が非難的となつてゐる。

この日配給の馬鈴薯は田村郡夏井村農會からの入荷品で三十三袋のうち十九袋が屑薯品となつて居るが、いかに格品であつても屑薯に對して四十個以上も懸るものはないと、八月上半期の就職状態は復員者、軍屬の場を求職者數二百九十九人が就職してゐる、求職

就職の悩み 漸く深し

本月上半期分の平働労働者の統計から、いくら食事情がこうだからと云へばお百姓さんの心からの供出を要望してゐる。

供出と日本農民組合

日野利春

(2) 農民は増産に對しては官吏の思ひもよらない努力をしてゐる。大事な處を出しても鉄の先かけをやると、食ふものも食はずにとつて置いた米をもつて肥料と物交をやる。しかも此の物交は非常な危険の中でのやうなものだ。此のやうな危険をおかしてまで増産の爲めに戦つてゐる。農會の配給肥料で毎年正直にやつたら收穫は半減して居る。此の出と云つてゐる。汗水をながして物をつくる農民の力が、自分達が喜んで同胞に供物を出す力があるのだから、その前に、強権によつて官吏に予盾があり、封鎖主のやうな行政の下では農民は欲するが得ない。いや反對に正し

開放

健全なる 青年結集へ

代價にしては、余りにも苛酷な戦と云ふ汚名の中に再び見えぬと決意した郷土に付て再生の歡喜を享受するとき、無關心でその真相を追求し盲目的自己認識の足跡を反省する意欲すらない青年同胞の多きをみた。その口にする封建的の打破と自由主義の言動は單なる瞬間的興味で、その前に平伏して、我々の青年の歩み來つた道をふり返る生命の危惧と東洋から脱し得た反動は單なる享樂的デカダンスの、とグロを追ひ食ふ、若しくは虚脱的生活をそれだけだつた。

急い青年の純血を捧げ、理論の根柢と信念的實踐力を欠いてを甘んじ初めてゆせんとしてゐるまいか、『悲味(ブルジョア)』

二十二人に對して就職者百八十者總數が百八十二人に對しては、七人である就職率は八四・二%職はその四〇%の三十九人となつてゐる。つきに工場職と云ふ數字を示してゐる、求職者は五十二人で九二%、引揚者六百四十五人の求職希望に對しては九十九人が就職してゐる、求職

させるかと云ふ事以外に考へて居ないのである。不思議な事は此食糧對策委員會に於て、最も重大であり、最も農民の關心をもつてゐる『肥料』の問題が一度か、不幸の泥道にいつてゐた。職を離れてゐない事だ。これが事だ、人間として仕方のない事だ。あつても悲しい事には違ひない。

その基本をなす肥料の問題の解決に全力が注がれるだらう。

明らな自主的供出へ、吾々は全力をあげて進むつもりである。出たばかりの女醫さんが、戦争中、特攻隊の海軍少尉と戀愛に落ちた。相手は、少尉といふ大醫學科卒業の活な果だつた。

彼女が汽車の中で知り合つたの。彼女は空襲中よく危険を冒してはゐる。基地まで命ひに行つた。然し彼がまだ出なな中、戦争は終つた。復員した彼と、さんは醫者をしてゐる親の反對から、家を出して、二、三ヶ月後の彼等の家庭は

或る女醫の結婚

すゞきまさる

戀愛の様に幸福でなかつた。それなら自分も生きやうない。語つてゐたが、彼女も矢張り當時の概念的な死といふ言葉のマジックに感傷してゐたので、なからうかと思ふ勿論インテリである彼女が、『辟』とか『車』の華とかいふ『辟』とか『車』が、女と云ふ思はない、しかし、ジイドを愛した。さんは失張りあらつた流行に、易易かつたらしい、あの頃は生活に根を、た幸福といふものは、無視されてゐた。彼女の不幸は一つに、時代の變遷によるものであつた。愛は過去を、現在を、將來を考へる必要がある。現在誰かが頭の中に封建主義と對立した『モクラ』を考へてゐる。若し若い人の中には封建主義を打破すると、ふ事は即ち古い時代の習慣に反對する事の様に見える傾向もある。而もその反對する事自体まで新しい事だと考へ勝ちである。それは明かに間違つてゐる。直輸入のデモクラシーは今日、日本人の手にかつてゆがめられ、概念化され、ポストスター化されつゝある。是であらう、『辟』と何等標本所がない。戀愛にしても只新しいからとか周囲の反對をおし切つたとかいふ事を、價値づけるのは間違ひである。アメリカの女性の様に、しつかりと將來の生活まで上へた上でなければ、あなたの悲劇は何時までも繰り返して行く。現代の世の中に結ばれた戀愛も、付いた將來に、びくともしない結婚生活が約束されなければならぬ。愚かな流行に乗つて不幸の種を今播かなければ幸である。

写真御用

新装のスタジオが皆様をお待ちして居ります

小名瀨町本町
助川写真スタジオ

製造注文に應じます
五馬力粉砕混合機あり
古いカタマリメント
御持下さい交換致します
大浦村七井川
(四倉驛約七丁)

合名 **大谷建材店** 工場
大谷 文夫
御注文の際、御一報下さい
係員 参上

電機工事請負は
電機工事専門家
に限る

湯木町三崎二三二
大隅電機商會
電二一番